

会 議 録

会議名 (付属機関等名)		第7回川西市立学校校区審議会	
事務局(担当課)		教育推進部学校教育室学務課	
開催日時		平成27年4月21日(火) 午後5時00分～	
開催場所		市役所4階 庁議室	
出席者	委員	白井智美、山内乾史、乾裕子、 柏直行、泉廣治、久原桂子、 後藤正順、安田未廣	
	その他		
	事務局	牛尾教育長、中塚こども未来部長、中西総務調整室長、 山元こども家庭室長、丸野こども育成課長 石田教育推進部長、若生学校教育室長、 尾辻教育推進部参事兼学務課長、上原学務課長補佐、 辻原学務課主事、木村学務課事務員	
傍聴の可否		可	傍聴者数 0人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会議次第		議事 (1) 諮問事項に係る審議について (2) その他	
会議結果		審議経過のとおり	

審 議 経 過

事務局	<p>それでは定刻になっておりますので、只今から第7回川西市立学校校区審議会を開催いたします。開会にあたりまして、本日、末澤委員、牧田委員からご欠席の連絡をいただいておりますので報告させていただきます。なお、学校代表の泉委員でございますが、公務の関係でのちほどご出席との報告がございました。</p>
会長	<p>はじめに会長よりご挨拶をいただきたいと思っております。よろしくお願いたします。</p> <p>年度初めの忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。今日は前回の案件が引き続き審議される予定です。いつものように建設的に議論頂ければ幸いです。よろしくお願いたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。本市において、平成27年度に組織改正がございましたので、ご説明させていただきます。教育委員会におきましては、昨年度の教育振興部の1部から平成27年度より子ども未来部及び教育推進部の2部の体制となりました。</p> <p>本日、事務局の出席者について、ご紹介させていただきます。牛尾教育長でございます。子ども未来部でございます。中塚子ども未来部長でございます。中西総務調整室長でございます。山元子ども家庭室長でございます。丸野子ども育成課長でございます。</p> <p>続きまして、教育推進部でございます。石田教育推進部長でございます。若生学校教育室長でございます。尾辻教育推進部参事兼学務課長でございます。辻原学務課主事でございます。木村学務課事務員でございます。わたくし、上原学務課長補佐でございます。どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>次に次第の2ですが、今回、新たにご就任いただきます委員のご紹介をいたします。学校長等代表の選任区分から、前委員の仲様及び松岡様の退職により、多田小学校より柏様に、東谷中学校から泉様にご就任いただくことになりました。</p> <p>ここで、教育長より委嘱状を交付させていただきます。よろしくお願いたします。</p> <p>~ 委嘱状交付 ~</p>
会長	<p>それでは本日の議事進行につきまして、これより会長にお願いたします。よろしくお願いたします。</p> <p>それでは本日の案件の(1)でございます。川西市の学校規模と今後の学校校区のあり方について、そして川西市立小学校の校区に関することでございます。</p> <p>前回審議では、統廃合にかかる事務局の考え方が示されました。ひとつは、2地区の統廃合について、本審議会の3つの原則である、教育の平等性を確保する、通学上の安全と利便性を保持する、校区と地域の関係性に配慮する、この3つの大原則の観点から統合を考えているということでございます。</p> <p>そして、統廃合の時期は新入生が1学級になると見込まれている平成30年度当初が望ましいということでした。具体的には、今回、多田グリーンハイツ地区と清和台地区の2地域の校区について議論を深め、次回審議会で結論をまとめたいと考えています。</p> <p>事務局より追加資料があるようなのでご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>追加の資料についてご説明いたします。手元に資料1と2の図面がございますのでご覧</p>

会長	<p>ください。前回ご提示させていただきました資料に、標高の高低差をお示しさせていただいております。ルートについては最長として引かせていただいております。</p> <p>赤に白抜き文字が標高でございまして、おおむね5 mごとに示しております。</p> <p>資料1は緑台・陽明小学校区、資料2は清和台・清和台南小学校区について表記しております。これを参考にいただきまして、ご審議いただきたいと思います。</p> <p>前回ご意見も出ていました通り、相当な標高差があるということでございます。実際に歩いて、時間をはかれたということでございます。</p>
委員	<p>改めて、この資料をご覧いただきまして、何かご質問等ございますか。</p> <p>高低差は大体これでわかるんですが、子供たちの住んでいる地域はどうなんでしょうか。高いところに子供が多く住んでいるとか、そういうことがわかればもっとわかりやすくなると思います。その辺は今わかるんでしょうか。</p>
事務局	<p>今手元に町丁名ごとの人数の資料はございません。</p>
委員	<p>極端に言えば、多田院の55 mのあたりや緑台3丁目のあたりは多田小学校のほうに近いので、そのあたりを代表にしていかなければならないでしょうか。清流台からの坂もきついですね。</p>
委員	<p>陽明小学校からだと距離的には短いですが。</p>
会長	<p>事務局のほうから、時間がどのくらいかかるのかということについて補足をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは実際歩いた結果をお話しさせていただきます。最も遠いところを選び、資料1の5番、6番を歩いて陽明小学校まで行きました。約2,200 mございまして、実際に35分で到着しました。8,000分の1の地図というのは、1 cmが80 mを表しております。ですので、今委員がご指示いただきました通り55 mの場所から多田小学校のほうに行きますと、これが1,040 mほどになります。ただ、地形を考えながら検討ということになってくると思います。</p>
委員	<p>僕らが小さいときはこんなもんじゃなかったからね。長いこと歩いてたから、今の子は恵まれてるのかなと感じるけど、交通事情も違うからね。将来的な子供の数を見ていくと、当初にも言いましたが、統廃合する時期じゃないかなと思います。それに対する課題の解決をしていかなければならないと思います。</p>
委員	<p>この校区は多田小にはならない、全部この中でということですね。</p>
会長	<p>そういうことですが、5%枠や兄弟枠でそちらに行くことは可能です。</p>
委員	<p>ただ地域そのものが5%ということではなく、多田小ということになればコミュニティの問題・自治会の問題等々が派生してくるので、校区変更についての申請を当事者たちが行わなくてはいけないのではないかと思います。</p>
委員	<p>資料を見て改めて結構高低差があるのだなという感想なのですが、2,200 mの35分は、特に1年生2年生にとっては高低差がある2,200 mということと、この地図で見ますと歩道があると思うのですが、55 mあたりのところは少し歩きにくいところがあるのではないかという気がします。</p>
委員	<p>高低差を見て実感が湧いてきたところなんですが、55 mあたりの子たちで通いにくいということであれば、5%枠の範囲内で多田小学校を選ぶということになると思うのですが、今回のこの統廃合によって5%を超えてきた時がちょっと難しいかなと。統廃合がな</p>

会長	<p>ければ緑台小学校に行ったけれど、統廃合で陽明小学校区になることによって、多田小学校に通う子たちが5%を超えてきたときに、難しい問題が出てくるなと思います。</p> <p>それではもう一つの清和台地区の方の資料をご覧くださいと思います。</p> <p>こちらは、縮尺が14,000分の1ですので、少し縮まったように見えますが実際にはかなり広いということでございます。こちらについても実際歩かれたのですか。</p> <p>事務局の方教えていただけますか。</p>
事務局	<p>こちらについては、実際に歩いておりません。</p>
会長	<p>先ほどの緑台・陽明の小学校区よりは、高低差が少ないかなと思いますが、かなりあると思います。</p>
委員	<p>お隣の地域なので細かくは歩いてませんが、例えばA地点から清和台南小学校までだと、低学年は、かなり距離があるのではないかと思います。</p>
会長	<p>前回、安全性と利便性という観点から、急いで統廃合しなくても良いではないかとの意見が、まさにそのことなのですが、その点と、平等性や他の原則と睨み合わせた時に、今後少子化が進んでいって学級数が減っていくという中で、その3つの原則とすり合わせて、どれがベストでないとしても一番思いつく中でベターかということだと思います。</p>
委員	<p>先ほど委員がおっしゃったように、今まで小学校区というくくりでコミュニティができその絡みで統廃合になった場合に、コミュニティや自治会の問題もあるということが教育委員会ではどのようにお考えなのかなと気になります。</p>
委員	<p>高低差や距離的なことは大変だと思います。もう一つ、来年度に新名神高速道路が開通しますが、インターチェンジがこの図面のAの近くになりますね。車の流れが変わってくると思うのです。特にこの川西篠山線の幹線道路が通路になってくる。BとかA地点の人がこのルートで通ってくるのが大変になるのかなと。今でも工事車両とかが多いし、低いところからぐるっと回ってきて大変だなと。交通事情が変わってくるので、30年を統廃合というと、新名神も開通していますので、交通量などがどうなっているのか今の時点と違うと思う。その辺も課題解決を考えていかなければならないと感じています。極端に言えばスクールバスを出すとかが、歩くのではなく、こういうこともできないのかなと思ってます。</p>
会長	<p>ただ単に統廃合するだけじゃなくて、安全性や利便性をどうやって考えていくかです。</p> <p>それについては事務局としてはどのようにお考えでしょうか。</p>
事務局	<p>新名神高速道路のインターチェンジ周辺ということで、先ほど委員がおっしゃいました資料2のAのあたり、石道というところですが、こちらの方で新名神高速道路のインターチェンジ周辺の土地利用計画というものが27年3月31に告示をされたところでありま。その中で、生活環境改善ゾーンということで、地域の方で協議会を設立して、計画がなされれば一戸建ての住居を開発できるというものであると聞いております。早くても計画策定から2年かかると聞いております。計画によっては2年以上かかるということでもあります。現在その計画がなされているかということですが、まだ現在のところは白紙と聞いております。今後どういう動向でなされていくかということも未定と確認しております。以上です。</p>
委員	<p>これから先、子どもたちがどのあたりに集中しているのかと、緑台もそうですけど清和台も、交通量等路線に多いんであれば安全も心配であるなと思います。</p>

会長	<p>こちらの方はわりと、標高100～120くらいのところが真ん中であって周辺部が少し低くなっている、緑台とは少し違う地形ですね。周辺部の子が多いと大変だということになるわけですね。</p>
委員	<p>先ほどの説明で、開発があれば子どもが増える可能性は十分にありますね。A地点B地点の辺で増える可能性はあるということですか。</p>
事務局	<p>まさにご指摘の通りなんです。ただ今言いました通り計画期間が若干長くて、計画規模、何世帯が入るのかということとは分かりません。実際に生徒数を読むのが非常に難しくございます。終了年度があくまで推計に基づいて単クラスが出現する30年度ということでしたが、もうすこし明確になったら変更も視野に入れることもあると思います。さらにもう一つ申し上げますと、アイデアの中に通学バスも、今のところ4～6km、かかった時間にして1時間以内という国の基準があります。そのあたりを見ながら、もし必要とあれば考えていかなければならないのかなとは思っております。ただ今回この2kmくらいの距離でこれをするかということ、ちょっと短すぎるかなという気もします。</p>
委員	<p>新名神とも関連してきて交通量がどう変わってくるのかという部分も大事な要素。それは緑台にしても清和台にしても共通の部分かなという気はします。自分自身小学校に勤めておりまして、子どもたちの通学の安全性というものは一番気を使ってる部分でありますし、学年が1～6年生まで年齢層が広いということとあわせて、気象状況が非常に不安定な時期もありますので、そのあたりも心配です。</p>
委員	<p>意見ということで、皆さんの議論から少しずれているかもわかりませんが、私、緑台中学校、清和台中学校両校の校長をしておりまして、この校区については比較的知っている方かと思えます。統廃合を考えるとときに数合わせが優先していると、やっぱり地域の生活や子どもたちの生活の範囲と違いが出てくるのかなと感じます。例えば緑台・陽明の場合でしたら、統廃合することによって新たな教育的価値が生まれてくる可能性がある、あるいは既存の施設で使わなくなった施設、例えば陽明に統廃合した場合、耐震工事も終わった緑台小学校のあだけのスペース、建物とグラウンドが残るわけですので、これを地域の活性化できるとか、もう少し年齢の低い子育て世代がこの地域へ戻ってこれるような何か起爆剤になるような活用方法をセットで考えていくと、統廃合も決して数合わせで終わらないと思います。あと何をセットにするかという問題になってくると思うんですけども、例えば、若いお母さん方、働いておられる方にとって一番重要なのは保育でしょうし、もっと具体的に言えば病児・病後児保育の様なものがもしこの地域にあったとしたら非常に魅力ある地域になっていく、そういう活用方法もあるのかなという気がいたします。一方清和台につきましては、これだけの広い範囲が青で塗ってありますが、清和台っていうのは旧の地域と団地との合わさった地域です。子どもたちは少子化の関係でほとんどが団地からきており、旧地域からきている子どもたちはほとんどいないという状況です。その中でこの石道地域が今後どういう動きになっていくのかということは想定はできないんですけども、数が増えてくる可能性っていうのは減っていくよりもあるだろう、そう考えた時に果たして西側の柳谷や赤松地域と別に切り離して統廃合を考えるというのはどうなのかと少し思います。つまり、団地の中の都合だけで統廃合というわけにはいかないだろうと思います。そういう意味で行くと、清和台小学校区で増えていく可能性があるとするともう少し長いスパンで全体を見ていく必要があるのではないか、単学級になったから</p>

会長	<p>即という状況ではないのかなという気はいたします。以上です。</p> <p>今、ご指摘あった点が2、3月あたりにこの審議会でかなり議論されました。</p> <p>ただ単に子どもの数が減ったから一緒にするというのではなく、夢のあるプラン、付加価値があれば住民も納得するだろう。あるいは、教育的価値を高めるなどポジティブな提案が受け止められるだろうと、熱心に議論されてきたところです。例えば、2つの小学校を1つにして、使わなくなったもう一つの方をどうするかについてすでに決まったプランがあるということではなく、別のセクションで検討されることだということでしたので、この学校校区審議会としてはそういうセクションに対してこういう活動方針がある、こういうプランがあると提言することで、街づくり・地域コミュニティづくりに対して関わっていくことが可能ではないかということです。</p> <p>先ほど申し上げましたように、この地区は比較的陽明小学校と緑台中学校との距離が近いので、小中の連携ができるのではないかと議論の中でも出ていましたが、清和台地区は非常に難しいところで、この両地区は事情が違うということは議論の過程でも出ていました。</p>
委員	<p>新名神が通ることによって、人の移動が変わる可能性があるということは重要な要素だろうと思います。大阪都市部への通勤アクセスがいいんですよね、時間がどれくらいかは分からないのですが、このあたりから大阪に通うのは短い時間で行けるので、一戸建てが増えてくるんじゃないかな。清和台小学校の方が、子どもの数が増えることが考えられるのであれば、議論のスパンが変わってくるなど考えています。一方で前の議論の時に、一つの選択肢としてお話しさせてもらったのが、清和台中学校を小中一貫校に変えていくという選択肢もあると言ったのですが、国の方での義務教育改革を進めていまして、成果が上がるのであれば子どもの人数についての基準が変わってくる可能性がありますので、大人数よりは多少規模が小さい方がいいんじゃないかという方向にもなりかねないので、清和台地区については慎重に、議論にもう少し時間をかけてもいいかなという印象を持ちました。</p>
会長	<p>委員がおっしゃったことは、大学から小学校までそうで、大学でも非常に斬新なアイデアに基づいて文科省が推進するようなグローバル教育に熱心なところは、定員を満たさなくても、今のやり方を変えるなど、定員を多少割っても大目に見るよということで、文科省から励まされてやっているわけですね。これまでの教育にない斬新な新しい効果を上げているということが認定されれば、必ずしも定員の充足という数値的なことにこだわらず柔軟に判断されるというのは確かにそうだろうと思います。要は、緑台・陽明小学校区と、清和台・清和台南小学校区の2つセットの案件として出ております。この両地区でちょっと事情が違うということでございます。特に、清和台、清和台南小学校区というのは先ほどからご意見が出ておりますように、ちょっと読みにくい要素を抱えておるということでございます。今の時点でやっってしまうといけないのかもう少し状況見た方がいいのかと、判断は分かれるところだと思いますし、学区もかなり広いわけですね、地形的にも。そのあたりが少し統廃合に関する緊急性の判断の時期がこの両地区で一緒ではないだろうということもあるかと思えます。事務局で何か補足とかございますか。</p>
事務局	<p>特にございません。</p>
委員	<p>生徒や児童数の減少というのははっきりしたデータで出ておりますしやむをえないかな</p>

	<p>と。2つを1つにした時に余った1つをどうするかということを再三申し上げてきているわけですが、そういうもののプランが何もなくて、地域にアナウンスしても納得できないよという意見が多いわけです。</p> <p>まだ正式に緑台小学校を廃校にしてというアナウンスができないわけです。そういうプランあるいは教育体系が出てこないかなと思っているわけです。毎回これで3回目か4回目か、同じようなデータで議論しており、これでは前に進まないと思うんです。斬新的な教育といいましょうか、市も早く着手してもらい示していただければなど。</p> <p>私も苦慮しているところなんです、例えば、今案として出ております、緑台小学校と陽明小学校が統合されて陽明の方に移ると仮にした場合、緑台小学校をコミュニティとしてどのように活用したいというご要望がとおりでしょうか。</p>
<p>会長</p> <p>委員</p>	<p>(2)にあります松風幼稚園の廃園という問題、これの引き換えに私立の保育園のうんぬんというのがあります。まず幼稚園から考えてみますと、地区に二つの幼稚園があるんですけども、やはり空いた校舎を幼保一体型の子ども園的なものはできないかという意見があります。また非常に高齢化しておりますので、地形的に緑台小学校というのは階段を上がらなくてはいけない、県会議員の選挙でもご高齢者の方から階段がしんどいという声が立会人の耳に入ったりしているもんですから。とは言いながら、やはり高齢者の居場所を考える、そして今こういう校区を一つにしなくちゃいけない問題が出たのは、子育て世代が少なくなっている、あるいは高齢者で空き家が出ているがそういう世代が入ってこない、じゃあそれを新年度の計画としてどういう見解をするかという委員会を作るわけですけども、そういう子育て世代も仕事ができる場所がないだろうかと、あるいは高齢化によります、福祉的な施設はできないかと、せっかくある体育館とかグラウンドを使った活用方法等々、これから検討の議題に上げようと思っているわけです。</p> <p>こうなるんだよという案がなければ、地域全体の意見集約はできないんですよ。今は一部の有識者だけでやっているという形です。</p> <p>そういう跡地利用の思いは皆さん同じような思いを持っています。あるいは公民館の移転だとか。公民館駐車場がないので路上駐車もありますので。あるいは耐震化の問題も抱えていますので。公民館の移設だとか。そういうプランを我々としては持っているんですけど公にならないことには、どうしようもない。</p>
<p>委員</p> <p>委員</p>	<p>加茂と加茂西小学校が統廃合したときに加茂小の跡地、もう20何年も前ですが、何も決めてないからそのまま置いてあるわけです。地域で何か使いたいということで要望を出されてたと思いますが、今は、市の倉庫になっています。</p> <p>教育委員会や市が真摯に受け止めて方向を出してもらわないと。子供が減ってきたから統廃合は分かりますが、跡地利用をどうするのか。財政的に苦しいから売却するでもいいのです。期待をもたせて何もできないなら、しっかりと方向性を示した方が良いでしょう。</p> <p>多田グリーンハイツが地元ですが、高齢者が増えていること、子どもが減っていることで、松風幼稚園が廃園すると、そのあとに保育所がないから、民間の保育所という案が出ています。民営化となると公的な幼稚園も保育所もないということになります。</p> <p>保育所を持ってくるのだったら公立として、子ども園という考え方はできないのかなということです。</p> <p>加茂幼稚園では、地域の高齢者が多いということで、年に何回か少し遠いですがハピネ</p>

	<p>又川西に行っているのです。一緒に老人と住んでいる子どももいないですし、そこに行く と初めは恐る恐る触っている子どもも、おじいちゃんおばあちゃんのところに行こうとし てくれたりとか、子どもも老いていくとこういう風になるんだ、いっぱい働いてこんなに しわしわになって、でもみんなが行くことでこんなに喜んでくれる。老人の方も子どもた ちがきて、歌ってくれるとすごく喜んでくれます。</p> <p>跡地ができれば、総合的に両方入った形で、デイサービスでもいいので、幼稚園が横に あって小さい子どもたちがいてという施設があれば、子育て世代のお母さんたちも戻っ てきて、一緒に住もうかとか、住めないなら二世帯住宅にして、ということにはならないの かなと思うのですが。</p>
<p>会長</p>	<p>今出されたご意見は、この議論に入ったときから出ています。関係のセクションの方に 出席いただいて説明をいただくことは、まだプランが固まっていないので無理であるとい うことでもございました。審議会として、こういう風に跡地を活用してほしいという要望を まとめるのはよいということであったわけです。先ほど出たご要望をコミュニティ代表委 員から出たということで、まとめるということは可能でしょうか。それと加茂小学校の話 は私も気になるので、事務局に事情を説明していただきたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>教育委員会という立場がございまして、審議会の主催理由というのでもございまして、 その範疇で文案は起こすとして、議論の中でこういう原案が出たとか、できるだけ文字に して、読んだ人がこういうことが本当は要望されているのだなということが見えるような 形で工夫したいと考えます。それと加茂小の件は、おっしゃる通り今このままです。治 安上もよくないので、市の方も苦慮しているところです。今のところ改めて総合的に開発 するのかどうかは明確にはなっておりません。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>統廃合で2つが1つになり、1つが空きになると、そういうのが身近にあると、ここも そうなるのではないかなという危惧をもたれる方もおられるんじゃないかと思うんです ね。</p> <p>そうならないんだ、こういう風に活用するんだという方向へ、活用を促すためにも強め の要望すると認めていただかないとまとめにくい。私も板挟みで非常に苦慮するところ です。そこは是非とも書き込んだ原案を次回にお示しいただき、それをもとに議論するとい うことにさせていただけないかと思います。お願いいたします。</p> <p>次回、具体的に出てきたものをもとに議論させていただければよろしいですか。</p> <p>それでは次に移らせていただきます。川西市立幼稚園の園区に関することでもございませ ん。我々、校区審議会、最初に諮問されたのは、小学校の校区に関することだと思いま すが、前回この幼稚園の校区について諮問があり、校区審議会のあり方としてはどうなん でしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>それについては、事務局に伺ったのですが、事務局より説明をお願いいたします。</p> <p>ご指摘の通り当初諮問させていただいたのは、学校校区のあり方ということで諮問させ ていただきました。その後、後ほど説明させていただきますが、幼稚園の再編計画が出て まいりまして、別の案件として園区についても議論いただきたいということで、小学校の 諮問がまだ固まっていない状況ではございますが、合わせて園区の方も協議いただきたい ということで、諮問させていただきました。</p>
<p>会長</p>	<p>以前、ふたば幼稚園と加茂幼稚園の統合についてもこちらで諮られました。園区のこと</p>

事務局

もこちらで扱うとのことでございます。

今回は、資料が不足しているため審議に入れたいとのことでしたので、事務局に資料を用意していただきました。説明をお願いいたします。

会長からご説明いただきましたように、前回の会議におきまして諮問させていただきました松風幼稚園が廃園となった場合の園区についてでございます。前回の会議の時に、廃園の計画となった経緯について資料の提示も含めて、説明をということで求められておりました。事前に子ども・子育て計画の抜粋の資料を送らせていただいたところでございますが、この子ども・子育て計画は、全体で100ページを超える計画でございますが、こちらについては、現在製本中でございますので、製本でき次第委員の皆様にはお送りさせていただきますようにしております。

今回は、事前にお送りした資料を集約しまして、お手元の資料3ということで、パワーポイントで資料を作っておりますので、そちらの方で説明をさせていただきます。

資料3の表紙にも載っておりますが、松風幼稚園の廃園を含みます公立幼稚園の再編プランについては先ほどから出ております、川西市の子ども・子育て計画の中にも盛り込んだという形になっております。川西市の子ども・子育て計画につきましては川西市の子ども・子育て会議という審議会におきまして協議をいただきまして、また、市議会への説明も経て、27年の3月に策定したところでございます。

まず、川西市における幼稚園教育の進め方ということで、始めに公立幼稚園・私立幼稚園の沿革について触れております。公立幼稚園につきましては、自治会や婦人会で設立されたのちに川西市に引き継がれた幼稚園、また地域の要望を受けて川西市が設立した幼稚園がございます。大きく二つの成り立ちがございます。一方、私立幼稚園につきましては、昭和40年以降の大規模団地開発に伴う人口急増時期に公立幼稚園の設立に合わせて私立幼稚園を川西市が誘致したという経緯がございます。

それぞれの役割といたしまして、現在公立幼稚園9園、私立幼稚園8園ございますが、それぞれで全市をカバーしまして連携を図りながら幼稚園教育の振興に取り組んできたところでございますし、今後も取り組んでいくところでございます。

また、公立園と私立園で公費の充当割合が異なるということでございますので、例えば3歳児保育につきましては私立幼稚園にゆだねるということで役割を分担してきました。

この公費の充当割合としまして、例えば公立幼稚園で言いますと、25年度の決算ベースで、85%が公費という状況でございます。

一方で私立幼稚園のデータにつきましては、市内の幼稚園のデータというのは公表されておりませんが、例えば全国の私立幼稚園のデータとして文部科学省が公表しているデータを見ますと、約50%公費が充当されているということで、かなり充当割合が異なっております。これらのことから、一定の役割分担の中で教育をそれぞれ進めていく必要があると考えております。

続きまして、市立幼稚園の状況でございます。設立年月ですとか園児数、定員を記載しております。例えば、定員合計を見ていただきますと、定員合計が1,370人に対しまして、園児数が590人ということで充足率という見方をしますと約43%になっております。

続きまして、私立幼稚園の状況ということで、さきほどの公立園と同様のデータでございます。定員ベースでは2,110人に対して園児数が1,663人、充足率としましては約

79%です。全体としましては公立幼稚園よりも高い率となっておりますが、個々の幼稚園を見ていくと充足率50%を切る園もあるということで、これから子どもが減っていく中で運営としては厳しい状況であると考えております。

次に市立、私立幼稚園、保育所の園児数の推移でございます。まず市立幼稚園を見てまいりますと、昭和52年がピークになっておりまして、そのあと減少傾向で平成5年ごろから増加しておりますが、ここから2年保育を実施したということで少し増加傾向になっております。そのあと平成16年が再びピークになりますが、現在減少傾向ということで

す。

次に私立幼稚園につきましては、平成3年度がピークになっておりまして、少し増減はありますが、1,500人を切ることなく一定の数字で推移しているところでございます。

最後が保育所でございます。平成2年度からのデータでございますが、保育所の人数につきましては急速に増加しておりまして、平成26年度に私立幼稚園を抜いております。このデータでございますが、幼稚園につきましては3～5歳、保育所につきましては0～5歳ということで、年齢の幅にすこし違いがございます。

続きまして、公立幼稚園の施設の状況でございます。建築からの経過年数ですが、経過年数の少ない園でも40年近く経過しているという状況でございます。また、耐震対策の状況につきましても現時点で4園で対策が必要であるという状況でございます。

次に公立幼稚園の活性化についてということで、平成21年度に川西市の幼児教育問題審議会にいただいた答申と対応、また現在の状況を記載しております。いくつか紹介をさせていただきますと、一つは、一学年の学級数は複数が望ましいという答申を頂いております。現状としましては、平成25年度の状況で4歳児クラスを見ますと9園中5園が単学級となっているという状況でございますし、先ほどの公立幼稚園の園児数のところを見ていただきますと、26年度も半数以上が単学級となっている状況となっております。二つ目の項目の南部地域において3歳児保育を行うことが望ましいという答申に対しまして、平成24年度ですが加茂幼稚園で3歳児保育を実施したところでございます。先ほど、公立私立の役割分担の中で、3歳児保育は私立幼稚園にゆだねるという説明をさせていただきましたが、南部地域につきましては私立幼稚園がないということで、南部地域にある加茂幼稚園で実施したところでございます。

次に適正な学級規模や学級数の確保が困難な場合は統廃合や廃園も視野に入れて検討する、再編整備にあたっては幼稚園型認定こども園等の活用を目指すという答申につきまして、対応としましては平成23年度末でふたば幼稚園を加茂幼稚園に統廃合したところでございます。学級数につきましては先ほど出ました、単学級でなくて複数学級が望ましいということ、学級規模につきましては以前の幼児教育問題審議会の中では1クラス15人必要だろうという答申もいただいております。この21年度の審議会の中では15人の妥当性につきましては、協議いただいたものの答申に至らなかったという経緯がございます。

一学級の適正規模につきましては、平成24年3月に文部科学省の委託事業として研究された結果でございますが、3歳児で20人前後、4～5歳児で21～30人くらいというような結果が出ております。根拠としましては2点書かれておりまして、一つは幼稚園教育において園児一人ひとりに個別の対応を行い共同性の育ちを培う必要があるということで、集団教育の中ではありますが、個別対応を十分行うことができる規模という観点で

ございます。もう一つは幼児集団の力動関係は遊びの状況によって変化することから、多様な相手を選ぶことができたり、思いを主張し合える規模が必要であるということで場面によって相手を選ぶことができる規模という、2つの観点からの研究結果でございます。

続きまして、平成25年度に実施したアンケート調査結果でございます。この調査の対象としましては市内全校の小学校一年生の保護者を対象としたものです。質問項目としましては、幼稚園を選ぶときに重視したことを聞いております。複数回答で答えていただいておりますが、まず、公立幼稚園を卒園された保護者の方の回答としましては、「自宅から近い・徒歩で通園できる」が圧倒的な数値で一番となっております。一方で私立幼稚園を卒園された保護者の方の回答につきましても、一番多かったのは、「自宅から近い・徒歩で通園できる」という項目となっております。

続きまして、アンケート調査の中で、市立幼稚園が今後取り組むことについて聞いております。市立幼稚園の卒園者の保護者の回答としましては「3歳児保育の拡大」、「給食の提供」、「保育時間終了後の預かり保育」これが上位の項目となっております。一方で私立幼稚園を就園された保護者の方から見た公立幼稚園につきましても、順番は変わるものの上位項目としては同じとなっております。

続きまして、今まで紹介させていただきましたデータから、市立幼稚園と保育所の課題を挙げております。

一点目としまして、市立幼稚園の園児数の減少でございます。先ほどもでておりましたが、集団教育でございますので、一定の規模が確保されることが必要と考えております。

二点目としまして、保育所の待機児童の増加ということで、保育所に入所を希望されても入れない児童が増えているという状況でございます。

三点目としまして、施設の老朽化への対応。市立の幼稚園、市立の保育所いずれも建設から相当年数がたっておりまして、大規模な改修が必要となっております。

四点目としまして、耐震対策の早期実施ということで、こちらも幼稚園、保育所ともに、約半数が耐震対策が必要となっております。特にこの三点と四点でございますが、幼稚園につきましては夏季の長期休業期間中に工事をするのが可能になってきますが、保育所につきましては長期休業期間がございませんので、例えば保育所を改修する場合には園舎を別のところに確保する必要があります。

続きまして次のページの上のシートでございます。先ほどの課題を加えまして、基本的な対応方針でございます。基本方針としましては、公立の幼稚園・保育所いずれも今まで通り私立の園と連携・協力を図りつつ、質の高い教育・保育を必要とするすべての児童に提供するとともに、子育てを支援する地域の拠点となるよう、その一体化を含め、適正な施設の配置を行います、としております。

この方針に基づきまして、方策を3点挙げております。

一点目が幼保の一体化を進める施設の配置ということで、可能な施設につきまして、幼稚園・保育所の一体化を図り、幼稚園・保育所の良さを活かした幼保連携型認定こども園への移行を推進いたします。二点目といたしまして、拠点施設の整備で、一体化が困難な施設につきましては、集約化を図るなど、地域の拠点となる教育・保育・子育て支援施設として再配置することとします。あわせて、民間法人による整備・運営を検討いたします。

これらを踏まえまして、三点目、安全・安心の施設整備に繋げていこうという方策でござ

	<p>ざいます。</p> <p>松風幼稚園がある多田グリーンハイツ地区の幼稚園の状況については、まず地図を見ていただきますと、園区内の中心部に公立幼稚園の松風幼稚園がございます。このエリアの北側と南側に私立の幼稚園がそれぞれございます。平野幼稚園と緑台幼稚園ということで、この園区の中には3つの幼稚園が現在ございます。</p> <p>3つの幼稚園の園児数の推移では、26年度の数値を見ますと、松風幼稚園については定員120人に対して35人、緑台幼稚園については定員240人に対して176人、平野幼稚園は定員360人に対して122人というような状況でございます。</p> <p>次に園児数の推計でございます。まず、多田グリーンハイツの園区内に4歳児の児童がどれだけいるのかということをお30年まで推計で表しております。平成30年度の数字をみますと、39人を見込んでおります。この39人が保育所に行く方もいますし私立の幼稚園に行く方もいますので、松風幼稚園に通う方がどれだけいらっしゃるかということをお推計しますと、6人となっております。6人の根拠としましては過去3年間の就園率、園区内の園児がどれだけ松風幼稚園に就園していただいたかの平均をとりますと6名でございます。一方その下の10名という数字が出ておりますが、こちらは平成27年度の松風幼稚園の就園率が近年より少し高い数字で出ておりましたので、その数字を当てはめてみたところ10名という見込みが出ております。</p> <p>先ほど出ておりました、このエリアで公立の認定こども園ができないのかという話ですが、こちらのエリアにつきましては公立保育所がないということで、公立で認定こども園をするのは少し困難かと考えております。ただ、以前からこのエリアにつきましては保育所を整備したいという思いがございまして、新たに民間保育所等をこのエリアの中で整備していくという計画も盛り込んでいるところでございます。説明は以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございます。私の方からまず確認させていただきたいのですが、前回の事務局の説明では子ども・子育て会議で、最短で平成29年度末廃園ということで間違いありませんか。</p>
事務局	<p>廃園時期につきましては、計画の中で特に明記はしておりません。最短で29年と申しましたのは、園児数の推計を見ますと、6人であれば集団教育は難しいということで、計画の中に年度が盛り込まれたというわけではありません。</p>
会長	<p>委員各位お持ちかと思いますが川西市子ども子育て計画案というこの冊子がございまして、106ページ、一番後ろの裏のページに、本計画に取り組む再編一体化事業という表がございまして、その一番下に緑台中学校区に新たに民間保育所等を整備しと、松風幼稚園の廃園がもう断定されているわけですね。これはもう決まったことなんでしょうか。こちらで改めて審議を要することなんでしょうか。初めに確認させていただきたいです。</p>
事務局	<p>松風幼稚園の廃園を含めてですが、市立の幼稚園・保育所のあり方につきましては、先ほど申しました川西市の子ども・子育て会議で協議いただいて、計画を策定したということです。</p>
会長	<p>要は、廃園ということは決まって、校区・園区をどうするかということをおここで議論すると、そういう理解ですね。</p> <p>ご意見を伺う前に委員の方々、資料についてのご質問はございますでしょうか。</p>
委員	<p>園区に関係ないかもしれないのですが、私立幼稚園で市外に出て行ってる子どもたちの</p>

事務局 委員 会長	<p>数はわかりますか。猪名川町に出て行っているとか、池田市に行っているとか。</p> <p>川西市内にお住いで市外の幼稚園に行かれる方は約600名ほどいらっしゃいます。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>他にございますでしょうか。</p> <p>ちなみに先ほどの106ページの表の一番上のところに、加茂小学校の跡地の利用についても書かれていますね。何かこの案件に対してご意見ありますか。</p>
委員	<p>民間保育所がないので、一体化が難しいということなのですが、新たに作るということは難しいのかなと。あと松風幼稚園に行ってた子どもたちは全て、多田幼稚園区になるということなんですけども、清流台の子どもってというのは、どれくらいいるかわかりませんが、私も松風幼稚園で清流台の子どもの担任を持ったことがあるんですけど、清流台から松風幼稚園というのはすごく高低差があるんですよ。上がって松風幼稚園に行くだけでも遠いところを、さらに多田幼稚園に行くとなると相当な距離なんですよ。そこから言うと清流台の子どもたちってというのは距離は遠いかもしれないけど東谷幼稚園、あの辺も道路事情があるのでどちらもどっちだなということはあるんですが、お母さんからすると下の子がいることを考えるとすごい負担になるのかなと思います。</p>
委員	<p>どのくらい時間がかかるかなということで、前回も申し上げたのですが、向陽台2丁目あたりから多田小まで4歳児のお子さんの手を繋いで下っていくのに1時間。帰りが坂道ですからぐずついて、自転車の後ろにのせて帰ったんですけど、下るだけで1時間。園児の1時間というのは非常に遠距離だと思います。</p>
委員	<p>相当な距離ですよ。そこに子どもと二人で歩くだけでも大変ですけど、さっき言ったみたいに下の子がいたりすると相当負担になると思います。</p> <p>幼稚園の方も少しずつは事情により自転車通園も認めざるを得ないんですけど、一応今のところは徒歩通園といわれているので、それでは到底無理だなと。</p>
委員	<p>今、市の方から説明ありましたが、この資料以外に実はパブリックコメントで予想以上の数が集まっていて、すでに市のHPで発表されていますが、そういうものも資料として入れてほしいと申し上げたんです。皆さんが園区を考える参考にするためにも、そういう市民の声も出していただけるとよかったですと思います。</p>
会長	<p>11月6日の子育て会議で発表されて以降、私や地元の保護者が非常に精力を使っていることは事実なので、いろんなかたの意見を聞きますとやはり近い・安いというところが魅力である、先生が熱心である、小学校との連携がよくできている、愛着があるなどが聞かれます。現実的には、データから見ると統廃合はやむをえないのですが。保育園の問題につきましても私が携わってから10年ですけども、先輩方の代から、保育所をとということを訴え続けてきたんですが、候補地がないということで実現できなかった。そういう中でこのような、民間保育所等を整備しということは果たしてできるのだろうか、地域の方の素朴な疑問です。そういう中で何故廃園するんだという声に対して、我々も回答としては数字でしか説明することができないので、辛い思いをしています。そういうパブリックコメントの結果なども公表していただきながら、皆さんの検討の材料にしていきたいと思います。</p> <p>地理的なことを教えていただきたいんですが、資料1の地図の、緑台老人福祉センターに近接する位置に幼稚園があると。多田幼稚園というのは多田小学校よりもさらに南にあ</p>

<p>委員 会長 委員</p>	<p>るんでしょうか。 小学校内にあります。 他に何かございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>基本方針のところで質の高い教育というところでは、確かに平成 30 年度の園児推計が 6 名というのは、難しい部分があるんだなということは納得せざるをえないかなと。子育てを支援する地域の拠点というのは、どういう形がこの地域にあっているのか、民間保育所‘等’とかいてありますが、どのようになるのかが少しイメージしづらいです。</p>
<p>会長</p>	<p>この辺り事務局として、何か計画がもう少し具体的なものがあるのでしょうか。ご教授いただけますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ご指摘いただいています、子育て支援の拠点といいますのは、市立幼稚園・保育所が一体化した場合に目指していこうというところでございます。松風幼稚園を廃園させていただきまして、それと合わせて保育所等を整備していこうと予定しているところでございます。</p>
<p>委員</p>	<p>民間保育所等ということにつきましても、地域の子育て支援、例えば園庭解放であったり子育て相談であったりということに取り組んでいますので、そういう意味からも地域の子育て支援の拠点という位置づけにはなろうかと思えます。今ご指摘いただいておりますのは、幼保一体型を公立施設でやった場合に目指していこうということでございます。</p>
<p>委員</p>	<p>私は中学校校長ですので、幼稚園というのは直接的な関わりはないのですが、私見だけを述べさせていただきますと、いわゆる専業主婦の子育て環境の充実という部分から幼稚園という一つの制度ができて、一方で女性の社会進出の拡大に伴って幼稚園教育よりも保育園のニーズの方が拡大してきていることは間違いないことだろうと。そういう意味で、私立幼稚園の経営ということもあわせて全体として考えておかなければ、川西市の幼児教育の質そのものが劣化していくとすれば大きな問題だろうと思えます。</p>
<p>委員</p>	<p>例えば、公私の選択というのも非常によく話題になりますし、「公」がいいのか「私」がいいのかという議論があるのですが、はっきり言いまして例えば先ほど出された資料の 4 ページにある、公立幼稚園を選択した中に、教育方針あるいは教育内容について選んだ部分は非常に少ないですね。一方で私立の幼稚園では「家から近い」の次にそういったものが上がっているということは、保護者の方は決して公立だからいい、私立だからダメという感覚は持っておられない、ということになれば、川西市内全体で行けば、牧の台や南部地域の方で、私立幼稚園がなくて公立が地域の幼児教育の根幹になっているところについてはやっぱり公が役割を果たす。グリーンハイツのようにどちらかといえば少子化の最も顕著なところに二つの私立幼稚園と公立幼稚園があるということならば、この地域の幼児教育をどういう形で担うのかという構想を立てないと、共倒れになっていく数字がここに明らかにでていると思うんですね。そういうことを考えると、公私の別で考えるのではなくて、公私をひとつにまとめた中で考えていくことが必要だと思えます。そういう意味で事務局の方が廃園という方向を出されたと思うのですが、園区の問題で発言させていただきまして、多田幼稚園に集約した場合、徒歩通園を求めること自体異常です。はっきり言いまして。自転車で連れてこいなんて言うのは雨の降ってる日に下の子も連れてというようなことを考えること自体間違いで、ということはこの地域の人は公立幼稚園に来るなど言うのと同じことだろうと思えます。ということになってくると、やはり廃園、園区変更</p>

の中で多田幼稚園の整備をどうするのかということと、そこに自家用車での通園ということも一つ大きな枠組みとして考えるのか、あるいは通園バスを運用するのか、そこは市としてどういう風に対応されるのかわかりませんが、徒歩通園にこだわっていく公立幼稚園のあり方自体が、「私」と「公」の陣取り合戦の延長線上にあるように感じます。そういったものを排した中で、「公」を活かすために整備するのか、「私」を活かすために「公」はどのようなふうに関与していくのかということに立たないといけないのではないかと。そういう意味は、少子化が進んでいる川西の能勢口付近も、たくさん私立幼稚園がある中で、公立幼稚園とどのような風に役割分担していくのかということも含めて、全体的なことを考えていく時がきてるのかな。単なる廃園と園区の拡大ということだけではなくて、考えていかなければならないのではないかと。その先にあるべき園区ではないかと。

例えば、清流台から、東谷幼稚園まで連れて来いというのも、極めて難しい状態だと思います。東谷中学校の校区の中で、西畦野が一番遠い区域です。東谷中学校と東谷幼稚園は近くにあるわけで、中学生が重い荷物を担いでやってくるのでも遠い距離を、小さい子供の手を引いてお母さんに連れて来いと、いうことは論外だろう。ということは、どちらの園区にするかということではなくて、この地域の公立幼稚園を望む親御さんにどのような形でどこの幼稚園に行っていただくかということを考えるべきだろうと思います。別に多田幼稚園に固執する必要は、私はないかと思えます。ただ、このアンケートの中で、近いということが公私ともに一番大きな選択肢になっているということは、その地域の中の幼児教育はその地域の中で担えるような体制を作ることが一番大事なところだろうと思います。バスに乗っていくということが本当にいいのかどうかということも併せて考えていくべきだと。

会長
委員

ありがとうございます。一通りご意見を伺おうと思います。他に何かありますか。

基本的な部分では、委員のとおりかなと思えました。実際私も子ども3人いまして、先に私立にやったのは教育内容がよかったということで、市外にスクールバスでやりました。ですが、牧の台地区に生活するようになって、下の子は公立幼稚園にやったのですが、その地域のつながりとか小学校、中学校との連携、そういうのも考えてみると公立にやってよかったかなと、経済的にも助かりましたし、小さいときにしか子供と手を繋いで過ごせないってうこともわかりましたし、私立にやってた時では味わえない公立の良さっていうのも実感しましたので、そういう意味では、私立には私立の、公立は公立の良さがあるということを知ってますので、両方が成り立つようなやり方をしてもらえればと思います。

会長
委員

ありがとうございます。他にいかがですか。

当時3つの幼稚園があって、そのうち2つが私立ですけども、これは人口が増えていくときに住民が要望してできたという経緯があります。その辺を踏まえると、公私が両立できたら一番いいんですけどそうは言ってません。そういうことで、ここの地区内に新たに民間保育所等を早く整備していただければ、保護者の方も上げたこぶしを下ろすんじゃないかと思えます。ただ、廃園時期については市の方でも検討していただけたということだったので、そういう流れ、私のコミュニティの会長の立場として皆さんにどのようなふうに関与するかにかかっているのではないかと今思っております。幼稚園園区については、委員が言って頂いたことを考えていただければと思います。

委員	<p>私はコミュニティの会長として言っているのか、私立幼稚園の理事長として言っているのか。私立の幼稚園は私立の幼稚園の良さがあるし、公立もいろんなところ見させていただきましたが、川西市の私立と公立の幼稚園の成り立ちがありますが、公立と私立が競争してるように見えてしょうがない。以前とは違い、もう競争する時代ではないと、私立に任せることは任せる、公立に任せることは任せるということではできないのかなという感じはしています。この多田グリーンハイツの松風幼稚園は、20年前に一応廃園という話は出たんですね。その時に、延期しようということで一年延ばしてまた子どもたちが増えてきて、現在に至っているということですね。</p> <p>そのとき、桜が丘幼稚園が廃園になったが、松風幼稚園は現在まで来たということで、現在の状況を見たら仕方ないかなという感じはします。教育面が、公立がいいから残さなあかんとか、そういうのは問題じゃないと思うんですよ。先ほど言ったように公立は公立のいいところ、私立は私立のいいところがあるわけですからね、それは保護者が選ぶもんですから。それは我々が公立がええとか私立がええとかいう話じゃないと思います。ただ、今の子どもたちの視点で見たときに、たしかに今まで公立に行っていた地域の保護者からすると、なんで廃園にすんのやと、下の子も行かしたいと。気持ちはわかるんですね。その辺のところ公立の幼稚園と、私の幼稚園の関係をもう少し明確にするのと、それと先ほどの資料3の最後に載っている、民間保育所等を整備し、というところですが、整備し、と書いているわけやからはっきりとした年次計画を出していかないと、ただ単に文言でね、民間保育所等を整備し松風幼稚園は廃園しますという書き方は乱暴なんじゃないかなと。整備するならその予定を出さないよ。</p> <p>それと一点だけ、最初の資料の中でね、1ページの、公立私立の役割というところで、2番目に公立園と私立園で公費の充当割合が異なるという説明で、公立の公費の充当は85%、私園は50%。で、これは市の財政の割合なのか。私立園は市より県からの助成が多いわけですね。誤解するような書き方に見えますが、県の助成も含めた割合なのか、その辺はどうなってるんですか。</p>
事務局	<p>公費の充当割合についての説明が不十分で申し訳ありませんでした。公費は国県市のいずれも含めた税金ということで、市立幼稚園につきましては市税のみ入っております。一方私立につきましては、国と県、一部市が入っている状況でございます。</p>
委員 会長 委員	<p>分かりました。</p> <p>ありがとうございました。他にいかがですか。</p>
	<p>はい。松風幼稚園の廃園につきましては別の会議の方で議論が進んだということで、こちらでは園区をどうするかということなんですけど、先ほどから言っている、通園距離がやはり異常だと思います。小学校の統廃合でも上がってたと思うんですけども、そうなったときに、経済的ないろんな理由から公立幼稚園に通いたいと思ってた方が、通園距離が長くなるがために、私立幼稚園を選ばざるを得ないということになってくると、教育の機会の平等という点では、すごく大きな問題が出てくるだろうと思うんですね。幼稚園があるからいいだろということじゃなくて、通園距離が長くなることによって、言い方が悪いですが、不本意ながら私立幼稚園を選ばざるを得ない、もしくは経済的にしんどいけれども子どもの安全や体力とか、毎日そんな長い時間通っていると、お母さんも大変と思いますけども子どももいろんな負担があると思うので、そういうことを天秤にかけた時に、本当</p>

	<p>は私立幼稚園に行けるだけの経済的余裕はないんだけど、選ばざるを得ない。園区の変更するとき、徒歩通園を前提に園区を設定していくことは非常に現実的ではないなという印象を持ちました。</p>
会長	<p>ありがとうございます。非常に厳しいご意見が多かったように思います。これは事務局として、先ほどご意見あったようにパブリックコメント、集約したものでいいので、資料として提出できますでしょうか。</p>
事務局	<p>パブリックコメントの結果につきましてはホームページにも掲載していますので、事務局の方でプリントアウトして、委員の皆様にご送付させていただきます。</p>
会長	<p>通園距離とかの問題もパブリックコメントの中で反映されていると思いますのでそういう声をみながら、改めて引き続き審議していきたいと思います。</p> <p>この案件につきましてほぼ予定の時間になっていますがさらに何かおっしゃりたいことがあれば、お願いいたします。よろしいでしょうか、今日のところは。ありがとうございます。</p> <p>それではですね、今回 PTA の方は来られなかったですが、次回ご意見を伺いたいと思います。次回の日程についての調整がございます。今回は、委員の中には 6 月が任期最後だという方もいらっしゃいますので、5 月 6 月と一回ずつ開こうと考えておりました、5 月は、先ほど事務局と少し相談したところ、5 月 21 日木曜日でいかがかと。17 時からということですが、5 月 21 日木曜日 17 時からこの庁議室で行うという原案でございますが、ご都合が悪いという方は、いかがでしょうか。大丈夫ですか。</p> <p>それでは一応今のところ 5 月 21 日に 17 時から庁議室で行います。また変更があれば改めてご連絡させていただきます。それでは本日は長時間ご議論頂きましてありがとうございます。閉会とさせていただきます。</p>